

精華町長 木村 要 様

精華町監査委員 船 戸 明

同 森 田 喜 久

平成 2 8 年度精華町国民健康保険病院事業特別会計決算の審査意見について

地方公営企業法第 3 0 条第 2 項の規定により審査に付された平成 2 8 年度精華町国民健康保険病院事業特別会計決算を審査したので、その結果について次のとおり意見を提出します。

第 1 審査の期間

平成 2 9 年 6 月 2 3 日から 8 月 1 7 日

第 2 審査の手続

町長から提出された決算書類が、事業内容を適法かつ正確に表示しているかどうかを検証するため、会計諸帳簿と関係証拠書類との照合やその他必要と認められる一般的審査手続を実施した。また、地方公営企業法第 3 条における経済性が発揮されているか、町民の福祉の向上に寄与しているかについての把握を主眼として、関係職員から説明を聴取するなどにより審査を実施した。

第 3 審査の結果

- 1 審査に付された決算書や関係諸表は、法令に従い、特別会計の状況を適正に表示しているものと認める。
- 2 予算の執行、経理事務及び財産の管理など財務に関する事務の執行は、法令に従い、おおむね適正に処理されているものと認める。

第4 概況分析

当会計の決算の状況を概観する。指定管理者制度（利用料金制）を採用しているため、当会計に医業収益は計上されない。当年度医業費用合計額は41,183千円であり、前年度より720千円（1.8%）増加している。主な増減は、減価償却費の増加1,595千円、資産減耗費の減少1,181千円であり、前者は前年度に完成した各階屋上防水改修及び手術室空調設備更新工事（事業費合計31,630千円）の減価償却費が1年分計上されたことによるものである。

一方、医業外収益には負担金交付金9,953千円や長期前受金戻入17,045千円等、合計27,952千円が計上され、前年度より1,654千円（6.3%）増加している。また、指定管理者である医療法人医仁会（以下、「指定管理者」）に例年どおり、平成28年6月に1億円を貸し付け、平成29年3月にその返済を受けている。利率は0.1%（前年度0.2%）であり、この貸付金により医業外収益に計上された受取利息は76,712円である。

これらの結果、当年度純損失は13,231千円となり、前年度の純損失14,178千円より若干改善している。

第5 補足意見

1 固定資産の管理について

貸借対照表には、簿価7,639千円の「器械及び備品」が計上されているが、その管理は指定管理者にて行なわれている。資産を廃棄する場合、指定管理者からの申請に基づいて決裁がなされ、指定管理者との協定締結時に作成された資産リストにその旨、記載されている。

ただ、年度末の固定資産棚卸などは行なわれておらず、資産リストに残っている固定資産が現存するかどうか、使用されているかどうか、については確認できていない。また、新規設備は指定管理者にて導入されることから、現場には町と指定管理者それぞれの所有資産が混在しているものと思われる。このことから、町と指定管理者の所有区分を明確にした上で、町所有資産について棚卸しを実施し、その在庫状況及び指定管理者によるその管理運用の状況を確認することが望ましい。

2 ソフトウェアについて

現在、病院会計専用ソフトを使用しており、貸借対照表には「ソフトウェア」として2,149千円が計上されている。

ただ、利用料金制を採用しているため、医業収益はすべて指定管理者で計

上され、当会計に計上されることはない。当会計には、医業費用（給与、経費、減価償却費等）と医業外収益（負担金交付金、長期前受金戻入等）、医業外費用（一時借入金利息）が計上されるのみであり、総取引金額を医業費用と考えると、41,183千円となっている。

病院会計ソフトのために年間保守料311千円がかかっているが、規模・運営形態を考慮すれば専用ソフトを継続して使用していくかどうか、検討することが望ましい。

3 指定管理者への貸付金について

例年、6月に1億円を貸し付け、3月に返済を受けている。また、平成28年度における利率は0.1%である。

指定管理者制度導入にあたり、保険請求との関係で2か月分の診療報酬目安を運営資金として貸し付けた背景はあるものと理解する。また、平成18年度以降の累積赤字が解消していないことも事実である（平成28年度末現在145,299千円の累積赤字）。平成29年度にも同じように貸し付けが行なわれたが、昨今の金利状況から利率は0.01%となっている。また、実質的に長期貸付に近いにも関わらず、1年以内で返済を受けているのは、町にとってのリスク管理のためと思われる。

指定管理者制度導入から10年以上が経過したこともあり、今後も累積赤字解消の動向を注視し、貸付けについて検討していくことが必要である。

4 指定管理者による精華町国民健康保険病院の運営状況について

指定管理者による精華町国民健康保険病院の運営状況を概観する。

病床利用率は95.5%（前年度93.2%）と高い水準を維持している。また、患者数も入院17,426人（前年度17,063人）、外来35,685人（前年度35,821人）と同水準を維持したものの、患者一人の一日あたりの診療収入は入院25,894円（前年度26,475円）、外来8,947円（前年度9,364円）といずれも減少している。特に外来において顕著なのは透析患者の減少で、当年度の実績は3,757人（前年度4,183人）となっている。また、訪問リハビリにおいても担当医の退職などにより、当年度の利用者数は121人（前年度501人）、利用回数は646回（前年度2,312回）と減少している。その結果、収益面でも、入院が451,237千円（前年度451,745千円）、外来が319,283千円（前年度335,444千円）、訪問リハビリなどのその他が39,199千円（前年度48,689千円）となっている。参考までに、平成18年度、平成23年度及び当年度の患者数は以下のとおりで

ある。

(単位：人)

	平成18年度	平成23年度	平成28年度
入院患者数	8,297	17,283	17,426
外来患者数	25,815	27,952	35,685
合計	34,112	45,235	53,111

年度末現在の職員数をみると、医師6名は前年度と変わらず、看護師27名（前年度23名）も含めた職員数は70名（前年度68名）となっている。また、非常勤職員数は医師19名（前年度20名）、看護師16名（前年度25名）など、合計57名（前年度67名）となっている。一方、年間を通してみると、年度途中で職員数が変動しており、結果として給与支払対象者の延べ人数が増加していることから、医業費用に含まれる給与費は583,901千円となり、前年度の572,491千円から11,411千円（2.0%）増加している。

以上の結果、当年度の医業利益は3,748千円の損失となり、当年度純利益も2,321千円の損失となっている。主な数字の5年推移を以下に掲げる。このところ、順調に純利益を計上し累積赤字も減少してきていたが、当年度は純損失となっており、引き続き、その運営状況を検証していく必要がある。

(単位：人、千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入院患者数	17,278	17,342	17,365	17,063	17,426
外来患者数	27,729	31,156	35,608	35,821	35,685
医業収益	733,859	787,410	839,272	835,878	809,719
医業費用	707,435	756,131	801,958	803,468	813,467
医業利益	26,423	31,279	37,314	32,410	△3,748
純利益	25,858	31,763	39,206	36,338	△2,321
累積赤字	△250,285	△218,522	△179,316	△142,977	△145,299

平成24年度以降、単年度黒字が継続していたが、平成28年度は2,321千円の損失計上となった。その収入面での主な要因は、外来のうち透析患者の減少（外来収益前年度比16,161千円減少）や訪問リハビリ医の退職によるリハビリ患者の減少（その他医業収益前年度比9,490千円減少）である。また支出面では、給与費が看護師の増加などにより前年度より11,411千円増加している。

収支変動には様々な要因があると思われるが、町の構造的な要因（人口推移、立地、施設の老朽化等）と経営的な要因の、両面があろう。タイムリーに数字を入手し、その分析を実施することが必要と思われる。

第6 決算の概要

1 予算執行状況について

(1) 収益的収入及び支出について

収益的収入及び支出の状況は、次のとおりである。

ア 収益的収入 (単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	対予算額増減	収入率
病院事業収益	27,244	27,952	708	102.6
医業外収益	27,244	27,952	708	102.6

収益的収入の決算額は27,952千円で、予算額27,244千円に対し、708千円の増、収入率は102.6%となっている。

イ 収益的支出 (単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
病院事業費用	40,299	41,184	0	△ 885	102.2
医業費用	40,183	41,183	0	△ 1,000	102.5
医業外費用	116	1	0	115	0.6

収益的支出の決算額は41,184千円で、予算額40,299千円に対し、885千円の増、執行率は102.2%となっている。

ウ 収支の状況

収入決算額 27,952千円

支出決算額 41,184千円

であり、収支差引13,231千円の赤字となっている。

(2) 資本的収入及び支出について

資本的収入及び支出の状況は、次のとおりである。

ア 資本的収入

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	対予算額増減	収入率
資本的収入	105,000	100,000	△ 5,000	95.2
他会計負担金	5,000	0	△ 5,000	0.0
貸付金償還金	100,000	100,000	0	100.0

資本的収入の決算額は100,000千円で、予算額105,000千円に対し、5,000千円の減、収入率は95.2%となっている。

貸付金償還金は、町の貸付けに対する指定管理者からの償還金である。

イ 資本的支出

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	105,000	100,000	0	5,000	95.2
建設改良費	5,000	0	0	5,000	0.0
貸付金	100,000	100,000	0	0	100.0

資本的支出の決算額は100,000千円（執行率95.2%）で、予算額105,000千円に対し、5,000千円の減となっている。

建設改良費において、病院施設老朽化による緊急時対応工事が発生しなかったため、事業が実施されなかった。

貸付金は、指定管理者に対する貸付金で、決算額は前年度と同額の100,000千円となっている。

ウ 収支の状況

収入決算額 100,000千円

支出決算額 100,000千円

であり、収支差引0円となっている。

2 経営成績等

(1) 損益の状況について

損益の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増 減	
			金 額	率
医業収支				
医業収益	0	0	0	—
医業費用	41,183	40,463	720	1.8
医業利益	△ 41,183	△ 40,463	△ 720	—
医業外収支				
医業外収益	27,952	26,298	1,654	6.3
医業外費用	1	13	△ 12	△ 94.5
医業外利益	27,951	26,285	1,667	6.3
経常利益	△ 13,231	△ 14,178	947	—
特別損益	0	0	0	—
特別利益	0	0	0	—
特別損失	0	0	0	—
純利益	△ 13,231	△ 14,178	947	—

医業収支は41,183千円の損失で、前年度と比較して損失が720千円(1.8%)増加、医業外収支は27,951千円の利益で、前年度と比較して1,667千円(6.3%)増加している。この結果、経常損失は、13,231千円となり、前年度と比較して947千円(6.7%)損失が減少した。特別損益が発生しなかったことから、純損失は、経常損失と同額の13,231千円となった。

ア 収益

収益の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増 減	
			金 額	率
医 業 収 益	0	0	0	—
入院収益	0	0	0	—
外来収益	0	0	0	—
その他医業収益	0	0	0	—
医 業 外 収 益	27,952	26,298	1,654	6.3
受取利息及び配当金	77	154	△ 77	△ 50.2
国・府補助金	0	0	0	—
負担金交付金	9,953	9,038	916	10.1
長期前受金戻入	17,045	16,360	685	4.2
その他医業外収益	877	746	131	17.5
特別利益	0	0	0	—
過年度損益修正益	0	0	0	—
その他特別利益	0	0	0	—
合 計	27,952	26,298	1,654	6.3

医業収益は、利用料金制により、指定管理者が診療費等を直接収入しているため発生せず、医業外収益は27,952千円で、負担金交付金が916千円増加、長期前受金戻入が685千円増加した等により、前年度と比較して1,654千円（6.3%）増加した。

総収益は27,952千円で、前年度の26,298千円と比較して、1654千円（6.3%）の増加となっている。

イ 費用

費用の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増 減	
			金 額	率
医 業 費 用	41,183	40,463	720	1.8
給与費	9,598	9,458	140	1.5
材料費	0	0	0	—
経費	1,357	1,191	166	13.9
減価償却費	30,148	28,554	1,595	5.6
資産減耗費	79	1,260	△ 1,181	△ 93.7
研究研修費	0	0	0	—
医 業 外 費 用	1	13	△ 12	△ 94.5
支払利息及び 企業債取扱諸費	1	13	△ 12	△ 94.5
雑支出	0	0	0	—
特別損失	0	0	0	—
過年度損益修正損	0	0	0	—
その他特別損失	0	0	0	—
合 計	41,184	40,476	707	1.7

医業費用は41,183千円で、減価償却費の増加等により、前年度と比較して720千円(1.8%)増加した。医業外費用は1千円で、前年度と比較して12千円(94.5%)減少している。

以上、総費用は、41,184千円であり、前年度の40,476千円と比較して707千円(1.7%)の増加となっている。

(2) 純利益額等の推移について

平成20年度以降の純利益(損失)額、入院・外来患者数、人件費と薬品費の各医業収益比等の推移及び医業収支及び純利益(損失)額の推移については、それぞれ次表に示すとおりである。

◎ 純利益（損失）額推移表

（単位：千円）

年度	純利益（損失）額	未処分利益剰余金	他会計からの繰入金
20年度	△ 30,587	42,358	10,184
21年度	△ 30,125	12,233	9,892
22年度	△ 35,466	△ 23,233	9,734
23年度	△ 24,452	△ 47,685	10,162
24年度	△ 26,288	△ 73,973	9,921
25年度	△ 26,677	△ 100,650	9,071
26年度	△ 14,662	256,106	9,638
27年度	△ 14,178	241,928	9,038
28年度	△ 13,231	228,696	9,953

◎ 入院患者延数及び病床利用率推移表（参考）

年度	許可病床数	患者延数	1日平均患者数	病床利用率	備考
20年度	50床（18,250床）	12,645人	34.6人	69.3%	指定管理者による運営
21年度	50床（18,250床）	15,250人	41.8人	83.6%	
22年度	50床（18,250床）	16,758人	45.9人	91.8%	
23年度	50床（18,300床）	17,283人	47.2人	94.4%	
24年度	50床（18,250床）	17,278人	47.3人	94.7%	
25年度	50床（18,250床）	17,342人	47.5人	95.0%	
26年度	50床（18,250床）	17,365人	47.6人	95.2%	
27年度	50床（18,300床）	17,063人	46.6人	93.2%	
28年度	50床（18,250床）	17,426人	47.7人	95.5%	

◎ 外来患者数推移表（参考）

（単位：人）

年度	患者総数	1日平均	内科	外科	小児科	整形外科	リハビリ	皮膚科	歯科	透析	泌尿器科	備考
20年度	28,089	96	16,835	2,120	5	366	2,135	1,424	4,194	1,010	-	指定管理者による運営 ※平成25年度以降のリハビリの患者数は、整形外科における患者数の内数です。
21年度	27,440	93	16,273	2,115	-	285	486	1,569	4,666	2,046	-	
22年度	26,991	91	15,150	1,880	-	371	0	1,725	5,312	2,553	-	
23年度	27,952	94	14,923	2,065	-	499	0	1,750	5,871	2,844	-	
24年度	27,729	94	14,187	2,132	-	470	0	1,794	6,252	2,894	-	
25年度	31,156	106	14,194	2,389	-	2,308	(905)	1,998	6,912	3,355	-	
26年度	35,608	121	15,742	2,631	-	3,474	(1,327)	2,299	7,125	4,337	-	
27年度	35,821	121	14,779	2,053	-	4,344	(2,142)	2,390	7,682	4,183	390	
28年度	35,685	121	14,694	2,112	-	4,708	(2,161)	2,461	7,544	3,757	409	

◎ 人件費、薬品費の対医業収益比（参考）

年度 区別	医業収益 (千円)	人件費		薬品費		人件費・薬品費計		備考
		金額(千円)	比率・%	金額(千円)	比率・%	金額(千円)	比率・%	
20年度	511,674	407,602	79.7	41,616	8.1	449,218	87.8	指定管理者による運営 (※金額は、町及び指定管理者におけるそれぞれの決算額を合算した数値とし、比率は、これら合算した金額に基づき算出した数値としています。)
21年度	597,722	419,196	70.1	46,086	7.7	465,282	77.8	
22年度	667,996	480,299	71.9	49,174	7.4	529,473	79.3	
23年度	710,893	512,396	72.1	53,865	7.6	566,261	79.7	
24年度	733,859	505,967	68.9	52,865	7.2	558,832	76.1	
25年度	787,410	539,737	68.5	64,363	8.2	604,101	76.7	
26年度	839,272	564,777	67.3	60,919	7.3	625,696	74.6	
27年度	835,878	581,948	69.6	57,792	6.9	639,740	76.5	
28年度	809,719	593,499	73.3	57,937	7.2	651,437	80.5	

◎ 医業収支と純利益（損失）額推移表（参考）

（単位：千円）

年度 区別	医業収益	医業費用	差引医業利益(損失)	純利益(損失)	備考
20年度	511,674	621,185	△ 109,511	△ 99,666	指定管理者による運営 (※金額は、町及び指定管理者におけるそれぞれの決算額を合算した数値としています。)
21年度	597,722	647,467	△ 49,745	△ 39,512	
22年度	667,996	719,356	△ 51,360	△ 35,149	
23年度	710,893	757,206	△ 46,313	△ 34,190	
24年度	733,859	744,289	△ 10,430	△ 430	
25年度	787,410	792,816	△ 5,406	5,087	
26年度	839,272	842,168	△ 2,896	24,544	
27年度	835,878	843,931	△ 8,053	22,160	
28年度	809,719	854,650	△ 44,931	△ 15,553	